

匿名社会の変貌

空知医師会
方波見医院

かたば みもと お
方波見基雄

8年前に寄稿した「匿名社会について」から世の中が急速に様変わりした。「リースマンが『孤独な群衆』で描いた工業化都市社会に匿名で生きる人々と比べて、現在の“匿名孤独者”はSNSを通じて“消極的匿名者”から“積極的匿名者”に移行した」と8年前に述べた。

当時の活字中心SNSに加え、以後スマホの機能拡大に連動して、動画投稿SNSが爆発的に普及した。YouTube、Dailymotion、Vimeo、TikTokへの匿名動画投稿数は今もうなぎ登りである。

新型コロナウイルス感染拡大・収束の繰り返しで必要に迫られた動画利用もそれに拍車をかけた。投稿にはメールアドレスやGoogleアカウント等との紐付けが必須なので名目匿名投稿でも実質“準匿名”投稿である。そして発信・共有バーチャル空間の世界的拡大とともにID・パスワード作成の増加、ネットショッピングでの携帯を介したSMS認証といった度重なる自己確認入力により、個人情報漏洩不安と個人情報発信欲求・必要とのせめぎ合いの中、“準匿名”から“準実名”への流れが加速する趨勢は避けられない。老若男女が参画する本邦の1億総動画SNS社会は4K～5K動画導入も相俟ってバーチャルとリアルとの障壁が次第に融解、それに伴い匿名と実名の垣根も崩れてきている。たとえ匿名投稿でもバーチャル共有動画空間の鮮度向上によるハイパーリアルな錯視がSNS空間での“分人化”を再“孤人化”へ引き戻しつつある。そして、リースマンが上梓した「孤独な群衆」も現在では“孤独な単独者”、しかもネットツールさえあれば誰でも好みに合わせてネット動画で孤独を紛らわし自ら発信源となる“準実名的積極的孤独単独者”に変貌している。

しかし“孤独単独者”は良いとしても問題はこの“積極性”にある。テクノロジーの浸透に支えられ急速に普及したネット・SNS空間にはサイバネティクスからAIまでもが埋め込まれたサジェスト機能で制御されている。このサジェスト機能により“積極性”は偽装され底上げされている。各孤独単独者の嗜好がクリック毎に積み上げられビッグデータ化され、さらに再帰的・有機的アルゴリズムで自動計算されて“積極性”は心地よい積極性に変形されることで“皮相的積極性”へと手懐けられる。そして動画サイトや動画投稿の急増はさらなる活字減少、いいねが氾濫するワードレス社会の到来と引き換えに、よく言えば感性が先鋭化、悪く言えば衝動が絶

えず沸騰する事態を招いている。

一方SNSにより人間が“分人化”して寛容性と多様性を増すとの向きもあるが、実際には世界は不寛容に流れ、また多様性といっても“店頭に多様な色と形の定規が陳列されている”といった類いのいつ何時単一性に収斂しかねないような多様性である。従って“分人化”への回帰も手放しの称揚にはなり得ない。

件のアルゴリズムはリアルワールドでも席卷している（薬物療法アルゴリズム、AIアルゴリズム）。利便性と有用性の高いアルゴリズムは無駄な思考によるタイムロスと余計なストレスを削減、医療精度、経済効率も高めるが、日常や業務で試行錯誤の痕跡を残す長文を書き記したり、増してやそれを直にラインやメールで送信することは憚られるようになる。

然るに動画SNSはおろか全ての活字媒体SNSツールもヨーロッパ啓蒙主義時代や大正デモクラシー時代の往復書簡とは対照的である。

スマートシティ、スマートオブジェクトに加え、スマートシンキングもアルゴリズムで創出され、情動を封印したモナダ的孤人たちが互いに思考過程をブラックボックスにした無駄のないスマート言語でリアルとバーチャルの境がもはや曖昧となった各種環境世界にその都度臨機応変に対応する流れとなっている。従って勃発する炎上、ネグレクト、暴力沙汰、戦争や宗教的なるものへの回帰はグローバルアルゴリズム社会の陰画である。

一方光速デジタル社会完遂の途上にあって残存したアナログ社会との時間的空間的ギャップが増大しておりデジタルストレス、デジタル疲労が新たな文明病の感を呈している。休日にストレス・疲労解消、気晴らしに出かけた自然環境でもデジタルネイチャー化が着々と進んでいる。この超地層化しつつあるグローバルデジタルネットワーク社会の明るい未来の陰で看過される負の局面を切り崩すゲームチェンジャーの担い手は、それに積極的に関与してきた匿名から脱却しつつある“孤独な単独者”たちから現れるのであろうか？